

## 令和5年度 第2回 渋川市市政モニターアンケート結果

渋川市は、市民の皆様から市政等に関する意見や要望をお聞きし、各種施策の推進や計画立案の参考とさせていただくことを目的に市政モニターアンケートを実施しました。

令和5年度 第2回 アンケートの集計結果は次のとおりです。

- 【調査対象】 令和5年度市政モニター（公募10人・団体推薦36人）  
＜モニターの要件＞
- ・市内に住所を有する18歳以上の人
  - ・公務員や地方公共団体の議員などでない人
  - ・同一世帯に市政モニターに応募しようとする者がいない人
- 【実施期間】 令和5年10月20日(金)～11月2日(木)
- 【実施方法】 主に電子申請による（一部、書面（郵送）調査）
- 【実施内容】
1. 市の魅力発掘・再発見について（問1～問2）
  2. 市ホームページについて（問3～問4）
  3. 食品ロス削減に向けた取り組み等について（問5～問8）
- 【回答状況】 アンケート調査回答者：25人（20歳代～70歳代）  
回答率：54.3%

### 参考

＜アンケート回答者の情報＞

- (1) 居住地 渋川地区（12人）、伊香保地区（4人）、小野上地区（0人）、子持地区（3人）、赤城地区（2人）、北橋地区（4人）
- (2) 年齢 20歳代（1人）、30歳代（6人）、40歳代（1人）、50歳代（6人）、60歳代（8人）、70歳代（3人）

＜前回アンケートの回答状況＞

- 回答者：38人（20歳代～70歳代）  
■回答率：82.6%

渋川市

（政策戦略課）

令和5年度 第2回  
渋川市市政モニターアンケート結果

1. 【市の魅力発掘・再発見について】

市は、本市のイメージアップとブランド力を高めるため、市内全域に広がる数多くの「食」・「自然」・「歴史」などの資源に改めて焦点を当て、「市の宝」と呼べる資源の掘り起こし、または、新たに「市の宝」と呼べるものを生み出すことにより、本市の新たな魅力発信と観光誘客につながる事業の創出を目指しています。

問1 あなたが考える「渋川市の魅力」を教えてください。

【主な回答】

- ・伊香保温泉街の温泉まんじゅう。お店によってまんじゅう生地や、あんこに違いがあるので食べ比べても楽しい。
- ・伊香保森林公園の風穴は、真夏のとても暑い日の朝に行くと温度差で神秘的です。
- ・渋川＝アジサイのイメージはあまり持たれていないと思います。アジサイを市の花にしているところはそれほど多くなく、全国的にもアジサイはどこ？という固定概念もないと思うため切り込む余地はあるかと。
- ・天然鮎。渋川市は鮎が居着くとされる清流域に属しますが、日本でも指折りの海から遠い場所であり、河口からの距離の長さは国内でも有数です。数ある人工的な障害物を乗り越えここまでの長距離を泳いでやって来る鮎はかなり希少価値が高いといえます。
- ・長峰公園のつつじと絶景の景色。この公園は知る人ぞ知る絶景のつつじの公園です。ゴールデンウィークが終了してからが満開になり、静かになる温泉街の起爆情報としても集客が考えられます。ですが近年、つつじの花がピーク時に比べて半分以下の花しか咲かなくなりました。榛名街道脇のつつじはほぼ咲きません。草刈りをしなかった為に蔓に巻かれてしまい、絶えてしまっています。もう1度あの公園が真っ赤な絨毯をイメージさせる公園作りを渋川市でお考えください。
- ・渋川市出身の選手はそのスポーツ界を牽引する存在である。また、スポーツ施設数においては他の市と比べても引けを取らないと思う。
- ・三原田の歌舞伎、津久田の人形、川島や行幸田の獅子舞、太々神楽、八坂神社の神輿や山車祭りなど有形無形の文化財。また近年発掘された金島地区や子持地区の遺跡や浅間石など歴史的にも価値のあるものも多い。さらに言えば、赤城のヒメギフチョウの保護活動なども誇れるものだと思う。白井城が有名ですが、それ以外にも古城址として有馬や行幸田・寄居・入沢・金井寄居・剣城・鑑山・伊香保などといくつもあるそうです。

問2 問1で回答いただいた渋川市の魅力のPR方法についての考え・案を教えてください。

**【主な回答】**

- ・食のPRに当たり、渋ペイ画面に広告や割引券を表示する。
- ・市外の人向けのPRとして、駅前で定期的にイベントを行う。
- ・良く終わってから知ったイベント、当日にほっとマップメールで知ったイベント、等の経験があります。広報やHPは比較的に見ている方だと思っておりますが上記状態ですので、HPや広報で周知してもいいのかもしれませんが。(HPや広報にイベントページを設けるのも手かと。)
- ・スポーツに関するPRに関して、渋川市出身スポーツ選手や市内スポーツ施設の特集など、広報・市ホームページ・SNS等で発信する。特に市内スポーツ施設の予約フォーム活用を推進する(この予約フォームが非常に使いづらい、施設別の検索しかできないので日別で空き状況を見れるようにしてほしい)。
- ・市内向けのPRは、ツアーやパンフレットで、もっと渋川を知ってもらうことが良いと思う。渋川の良い所は、と言われた時にパッと頭に何がいくつ浮かぶか考えてほしい。
- ・市の歴史(浅野総一郎がつくった関東水力電気(株)、関東3社)に関する市民向けPRとして、小中学校の児童生徒向けに校外学習として見学してもらう。

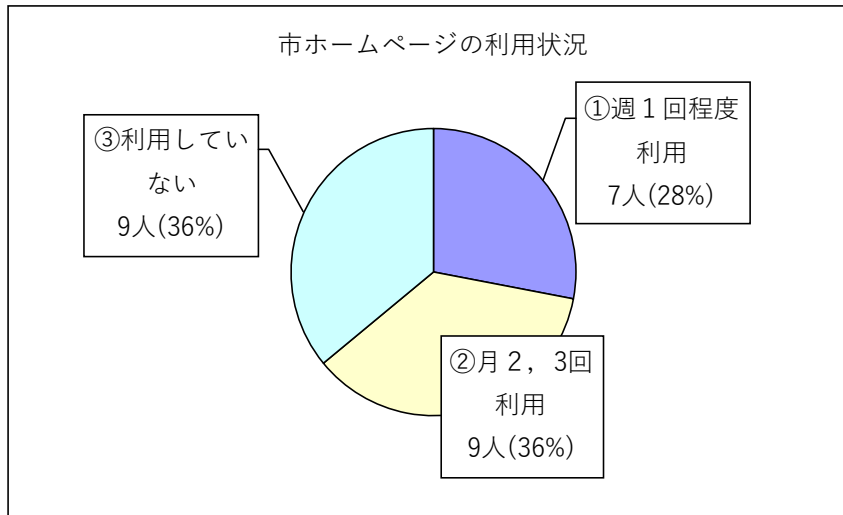
## 2. 【市ホームページについて】

現在の市公式ホームページは、情報の探しやすさと災害時の対応力を向上させるため、令和2年にリニューアルを行い、レイアウト・デザインの変更や検索機能などの強化を行いました。

市は、現在のホームページの契約が満了となる令和7年に、さらに利用しやすく、見やすいホームページを目指して、ホームページのリニューアルを予定しています。

問3 市のホームページの利用状況を教えてください。

- ①週1回程度以上の頻度で閲覧している（7人）
- ②月に2，3回程度の頻度で閲覧している（9人）
- ③市ホームページは利用していない（9人）



<結果>

全体的には、半数以上の人がある程度市ホームページを利用していることが分かります。30・50・60・70歳代からは複数人の回答がありましたが、その内、30歳代については、利用しないと回答した人が6人中5人と多く、該当者の意見として検索方法の改善に対する意見が見られました。対して50～70歳代は、半数以上がある程度利用していると回答しています。

なお、50～70歳代のある程度利用している人からも検索方法に関する意見が見られました（検索事項がヒットしないなど）。

問4 上記「問3」で回答した内容に合わせて下記に回答してください。

■①または②と回答した方（16人）

市ホームページの使い勝手や利用しての感想などを自由に記入してください。また、リニューアル時に重視すべき事項について意見があれば記入してください。

【主な回答】

- ・ 検索しても知りたい情報が出てこないことが多い。知りたい情報にたどり着くまでに、時間がかかる。
- ・ レイアウトや構成は、他の市町村に決して引けは取らない構成だと思っています。構成はシンプルであり、他市町村と比べても見やすい構成と思っています。しかしながら各コンテンツについては、文字情報が多く、画像やサンプルなどが少ない。
- ・ 見つかった情報が古い等が気になることが多いです。
- ・ 暮らし関係は、配布物があるのでHPは閲覧しない。リニューアルするのであれば配布物を無くしたHPにするか議論が必要。
- ・ 申請書ダウンロードは分野別に整理され良いのですが、補助金交付申請などは見つけにくいので、この部分に検索があるとありがたいと思います。
- ・ 検索機能を利用する事が多いが、ヒットするケースが少ないため、何度か作業することが多い。
- ・ 使い勝手はとくに悪いということはないが、あまり面白みがない。

■③と回答した方（9人）

その理由を記入してください。

【主な回答】

- ・ 広報で見逃した情報等がない限り、アクセスする必要がない。市のホームページでしか得られない情報とはなんだろうか？
- ・ 特に調べる事が無いので調べる事がある時だけ見ます。LINEに、市のお知らせ、ホットマップメールも来るので。
- ・ 全く利用してないわけではないが、月に2、3回も見ません。助成金や、ゴミについてや、年末調整や確定申告についてなど調べる時は利用させてもらっているの、その辺りをもっと見やすく、調べやすいようにしていただけたらなと思います。
- ・ みにくい、操作しにくい。
- ・ 役所で使用される申請用語がわからなくて検索がそもそもできないという事態がしばしば起こる。
- ・ 知りたいことがあり検索したが分かり難かった。

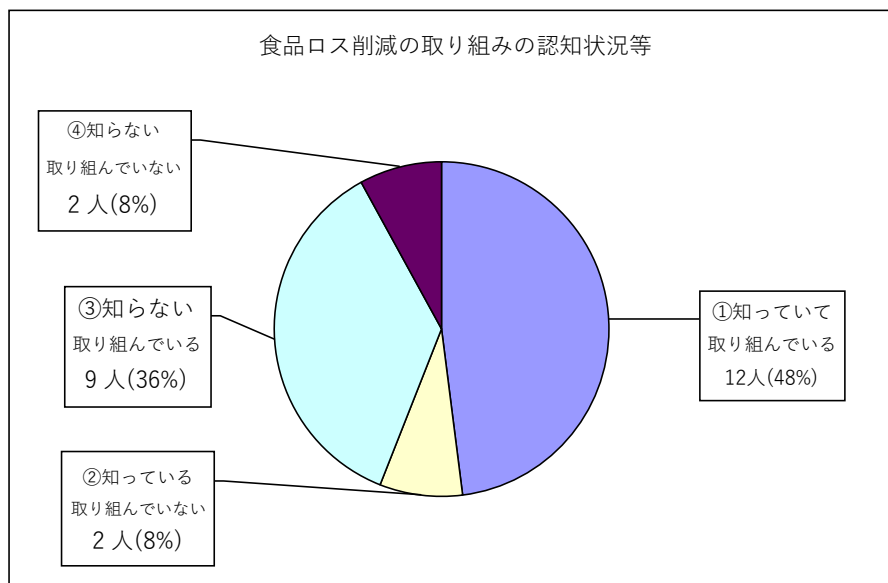
### 3. 【食品ロス削減に向けた取り組み等について】

市は、令和3年4月に「渋川市もったいないの心を持って食品ロスの削減を推進する条例」を施行しました。また令和5年3月には、令和5年から令和14年を対象期間とする「渋川市食品ロス削減推進計画」を策定し、市内における食品ロス削減を推進しています。

これらの条例・計画では、行政・市民・事業者の区分で、それぞれが取り組むべき責務を明確にしており、その取り組みのひとつとして、食品ロス削減に取り組む市内飲食店などを「しぶかわフードラブ協力店」に登録しています。登録事業者は、食べきれぬ量の料理の提供や食品ロス削減の啓発ポスターの掲示等により、利用者への食品ロス削減の呼びかけなどを実施しています。

問5 「渋川市もったいないの心を持って食品ロスの削減を推進する条例」、「渋川市食品ロス削減推進計画」を知っていますか。

- ①知っていて、食品ロス削減に取り組んでいる（12人）
- ②知っているが、食品ロス削減には取り組んでいない（2人）
- ③知らないが、食品ロス削減に取り組んでいる（9人）
- ④知らなくて、食品ロス削減に取り組んでいない（2人）



#### <結果>

市の食品ロス削減の取り組みの認知度は、知っている人がやや多いものの、おおむね半数となる結果となりました（56%→44%）。対して、食品ロスに取り組んでいる人は年代にかかわらず多く、全体の8割以上という結果になりました。「市が食品ロス削減に取り組んでいることが知られている」とは言いがたい状況ですが、「市民の食品ロス削減への意識は高い」ようです。

問6 上記「問5」で回答した内容に合わせて下記に回答してください。

■①または③と回答した方 (21人)

食品ロス削減のために取り組んでいることを教えてください。また、市民の皆さんに食品ロス削減に取り組んでもらうために必要だと思うことを教えてください。

【主な回答】

- ・スーパーで手前から購入する。冷蔵庫の状況を見てから買い物へ行く。近所の親族宅に余りそうな物をシェアする。
- ・継続して市民に知らせる事が大切。食品ロスと言ってもどういう事が食品ロスなのか分からない人も多いと思います。
- ・基本的に無駄な買い物は避けています。生ゴミ等が出ても庭の畑に埋めたりして活用し、ゴミも減らす努力中です。
- ・買いすぎない、作りすぎない、皮を薄く剥く、消費期限のながいものを買う
- ・食品ロス＝ゴミの増加ということで食品ロスの取り組みもゴミの削減につながるのこの観点からのPRの継続も重要かと。あと比較的外食する身としては分量を選択できる・できないが結構ポイントになると思います。
- ・市民に取り組んでもらうためには、食品ロスの排出者という意識を持ち、自身が排出する食品ロスについて、まず適切に把握することかと思います。適正なものを適正な価格で購入するという意識を皆で持てるようになれば、価格競争が抑えられ、業者さんも過剰な在庫をかかえないで済むことにつながると思います。
- ・「環境保全のために食品ロス削減しましょう」というのは頭では理解できるが、規模が大きく実感しづらいため、熱心に取り組む方は少ないのではと思う。もっと身近でイメージしやすいところから実践してもらうことで、結果的に食品ロス削減に繋がると思う。
- ・残したりするというのは、自身の食事量を把握してないということであると思うので、自分の身体的健康面にも意識が向くように取り組む必要があると思う。
- ・食べ残しをしないように気をつけているが、作っても残ってしまったりするので味変のリサイクル料理のレパートリーを増やしたいし、知りたい。

■②または④と回答した方 (4人)

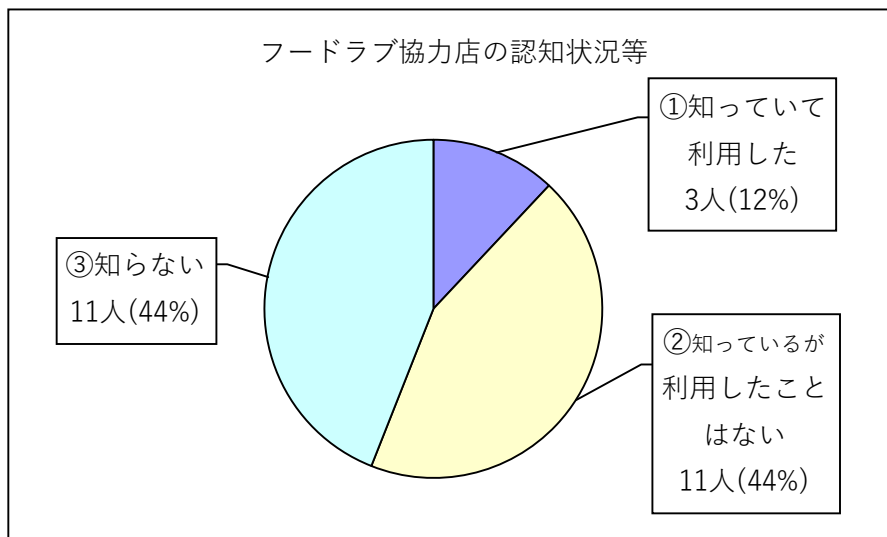
今後、食品ロス削減に取り組みたいと思いますか。また、その理由を教えてください。

【主な回答】

- ・賞味期限が近い食品や規格外の野菜や果物が安く売っていれば、ぜひ買いたいと思います。

問7 「しぶかわフードラブ協力店」を知っていますか。

- ①知っていて、利用したことがある（3人）
- ②知っているが、利用したことはない（11人）
- ③知らなかった（11人）



<結果>

フードラブ協力店制度の認知度は、知っている人がやや多いものの、おおむね半数となる結果となりました（56%—44%）。対して、フードラブ協力店を利用したことがない、または、制度を知らない人は、8割以上という結果になりました。

制度に対しては前向きな意見が多く、問5の集計結果でも分かるとおり、市民の食品ロス削減への意識は高いことがうかがえますが、その店を使うメリット（渋 Pay ポイントの付与など）または、フードラブ協力店に登録するメリット（「協力店登録したら宣伝してもらえる」や「協力店だけのクーポンやキャンペーンに参加できる」など）の検討が必要だという意見もありました。



問8 市は、「しぶかわフードラブ協力店」制度をより広く市民及び事業者に普及したいと考えています。この制度についての考えや制度を普及するために必要なことなどについての考えを自由に記入してください。

**【主な回答】**

- ・ イベントなど開催後は広報で結果報告する。土日にスーパーや公園で認識してもらえるようイベント、チラシ配布をおこなう。
- ・ 幼稚園、保育園、小中高校生それぞれの年齢層に合った分かりやすい冊子を作成、学校等を通して配布。子どもを介すれば親の手元にも届きやすくなると思います。
- ・ 渋川市のLINEとかSNS等での広報が若者には1番目に入ると思います。
- ・ 広報に載せる、渋ペイの店舗表示にマークを付ける。
- ・ 普及させるための施策は必要だと思います。そのためもっと選択肢を増やしてもいいのかな、と。私が前橋で経験したお店では、全部食べ切ったらコーヒ一杯無料サービスしてくれました。残さなかった場合の特典（無料サービス、割引、ポイント追加）や小盛りを選択した場合の割引などの助成についても制度が軌道に乗るまでは必要なのかもしれない。
- ・ イベント会場の一角にPRコーナーを設けるなども効果的かと思います。業者に対しては、協力店を増やす取り組みとして、業界向けの講習会などを開催する際、二部構成でフードラブ協力店制度の説明や、取り組み事例などを話されると良いかと思います。
- ・ 協力店が増えれば、市民一人ひとりの食品ロス削減への意識が根付いてくると思う。事業者への普及として、協力店登録したら宣伝してもらえる、協力店だけのクーポンやキャンペーンに参加できるなどのメリットを増やすことが必要だと感じる。
- ・ 自社でも協力店の登録をしていますが、難しいです。
- ・ 取り組みの結果によるメリットが、イメージの良さなどというのはどうしても普及させるという点を考えると難しいと思える。
- ・ 該当店舗を利用した際に渋ペイなどのポイントが付くようにすれば少しは普及するのではないか。